



題字 足立区長 近藤 やい  
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会  
会長 市村 智  
編集 広報委員会  
発行日 2024年11月1日  
〒120-8510  
足立区中央本町1-17-1  
TEL 03-3880-5870



「とんだイルカ」 千寿双葉小 4年 あおば まさき  
青羽 将基 作

## 目次

専門部会活動報告	1
会長協議会視察研修	2
全員研修会	3
<b>特集</b> 高齢者を支える	
孤立ゼロプロジェクト	4・5
専門部会活動報告	6
子どもたちはいま 桑袋ビオトープ公園	7
短歌・絵画	7・8
ぶらり足立 宝蔵寺	8
広報紙「さくら」アンケート	8
編集後記	8

## 専門部会活動報告

### 子育て家庭が望む支援とは

子育て支援研究部会

部会長 小関 多津子



今期の部会では、子育て支援について学び「何か形ある物を残したい」という気持ちでスタートして2年を迎えました。

あだち子育てガイドブックを手にしても、子育て家庭が望んでいる支援を詳しく知ることができず、区の担当に説明してもらい、興味を持った所に各グループで見学に行きました。それぞれの施設の方々が、一生懸命支援されている姿を見たり聞いたりし、私たちも何かできることがあるだろうか考える1年でした。今年度は、NPO法人子育てパレットの方に今の子育て事情の講演をしていただきました。子育て家庭に民生・児童委員が認識されていない状況の中で、子育て家庭が望む支援は何なのか、そしてどう関わられるか「応援早見表」の作成に向け、試行錯誤してまいります。

### 子どもの人権を考える

児童福祉研究部会

部会長 伴 誠



民生・児童委員になり研修講演会に参加するにつれ、人権について特に関心を持つようになりました。

私が民生・児童委員になったきっかけは、江北地区会でヤングケアラーが議題に上がった時に意見を述べたことでした。その内容は「人はプライドと愛情の中で生活しているもので、親子は互いに気遣いをしながら暮らしているのだから、ヤングケアラーは見つけ難いものではないか」ということでした。

児童福祉研究部会が開催している研修会(勉強会)は「ぼーっと生きてきた」私にとって、人生の中に小さな光が心に残る良い機会となりました。

これからも一委員として、知見を深めて部会を進めていきたいと思っています。



聖明ホール

## 盲養護老人ホーム聖明園の見学 障がい配慮した施設運営に感銘

### 車中で「高齢者あんしん生活支援事業」の研修

会長協議会では6月11・12日に、1泊2日の視察研修に行っていました。早速、行きバスで会長協議会を行い、福祉情報や今後の会議の打ち合わせ、民生・児童委員、主任児童委員の資格要件などについて確認しました。

次いで足立区社会福祉協議会（以下、社協）の高橋福祉事業部長による「権利擁護センターあだち」の支援サービス「高齢者あんしん生活支援事業」についての研修を行いました。同サービスは社協独自の事業です。単身で身寄りのない高齢者が安心して自立した生活が送れるように、入院・入所時に社協が保証人に準じたサービスを行います。ほかにも区役所への手続きや預貯金の払い戻しを代行する支援もあり、心強いサービスだと思いました。

### 視覚障がい者の福祉と文化の向上を

そして今回の視察研修のメインである盲養護老人ホーム聖明園へと到着しました。私たちを迎えてくださったのは、御年95歳の本間昭雄会長です。会長

自身が中途視覚障がい者で、今から約70年前に世田谷から現在の青梅の地に山を切り開き、一万坪余りの聖明園を創られました。当時は在宅の視覚障がい者が社会復帰を図る制度はなく、盲老人の問題の深刻さに心を痛められたとのこと。以来、視覚障がい者の福祉と文化の向上に尽くされ、盲大学生奨学金制度を創り、弁護士など社会の第一線で活躍されている人材を多く支えてこられました。

本間会長の「誠実に誠意を持って努力をすれば道は開ける」という言葉に感銘を受け、施設の見学をさせていただきました。白杖はぶつかると転倒などのリスクがあるので施設内では使用しない、ウグイスやカッコウのさえずりで人の通行を知らせる、手すりのマークで自室や食堂がわかるなど随所に工夫がされていて感心しました。

大磯の旧吉田茂邸見学や翌日には箱根観光もあり、会長同士の親睦を深めながら充実した楽しい研修になりました。

（第一合同会長 小林尚子 記）



◀「誠実に誠意を持って努力をすれば道は開ける」と話す本間会長



▲施設内を見学。随所に視覚障がい者に配慮した工夫がある





# 頻発する災害や身近な犯罪に備えて

全員研修会はコーラス部「葦立『コール絆』」の合唱で開幕。市村智会長は主催者挨拶で「コロナ禍から今の活動に戻りましたが、現状は少し変わってきていると感じています。難しい問題は考え込まず、委員同士が相談していこうと考えています。活動事例集をぜひ読んでいただきたい」「猛暑の中の研修は来年からは考えていきたいと思っています。夏はこれからが本番、地域の皆様の役に立つ活動をしていってほしい」と話しました。

来賓の近藤やよい区長は「コロナ禍を通して難しい相談ごとが増えていると聞いております。今年度から創設された福祉まるごと相談課では、家族全体で何が必要か、こじれた糸を解きほぐす処方箋を書く役割があります。どこに相談してよいか窓口がはっきりしない時に活用していただきたい」「能登半島地震の教訓から、足立区でも備蓄を増やす方向に進んでいます。各家庭でも最低3日分の備蓄をお願いしたい。また、災害関連死を防ぐために、歯磨きが有効と言われています。歯磨きの道具を備蓄用品に加えていただきたい」と話されました。



▲ 8月1日、西新井文化ホールで

▶ 防災への取り組みを訴える近藤区長



各専門部会の活動報告や今後のテーマの発表もあり、2時間半の研修会は無事に終了しました。

## 記念講演

### 「足立区における防災・防犯の取り組み状況について」

能登半島地震の支援活動に参加した足立区危機管理部 茂木聡直部長、同部災害対策課 寺島光大課長が、その体験をふまえて災害への備えについて話されました。



▲ 講演者のみなさん

発災当時は現地での情報が混乱して、全国各地からの支援なども遅れたこと、そのため家庭での備蓄は最低3日分ほしい。簡易トイレの重要性や情報の収集手段などの説明がありました。

防犯では、警視庁西新井警察署生活安全課 高見智也課長が、SNSやアプリを使った犯罪の現状と悪質化、巧妙化する特殊詐欺の手口を解説。困ったときは一人で悩まず、誰かに相談することが被害を防ぐ一番の方法と話されました。



▲ 各専門部会長が、今後の活動方針を発表



▲ 創部10周年を迎えたコーラス部は「二度とない人生だから」「ほらね、」の2曲を披露

(鹿浜地区 小宮忍 記)



## 高齢者を支える

# 孤立ゼロプロジェクトに注目！

足立区の65歳以上の高齢者の割合は約25%。東京23区内でトップクラスであることをご存知でしょうか？ コロナ禍を経て高齢者の孤立死も増えています。

民生・児童委員（以下民生委員）の活動の柱

のひとつが、高齢者の見守りです。足立区が高齢者支援の中心として取り組んでいる「孤立ゼロプロジェクト」について、実情や今後の問題点などを探りました。



### めざすは 「お互いさま」のまちづくり

高齢化が進むなかで特に問題となるのは、社会からの「孤立」です。虐待や認知症、孤立死などの背景には「孤立」が潜んでいることが多く、高齢者の孤立はいのちの問題に直結しています。

足立区では「気づく」「つなげる」「寄り添う」をキーワードに、「孤立ゼロプロジェクト」に取り組んでいます。地域のみなさんのゆるやかなつながりが、高齢者の孤立を防ぐことにつながります。特に地域の実情をよく知る民生・児童委員のみなさんは、プロジェクトを進めるうえで欠かせない存在です。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

(足立区絆づくり担当課 澤田健二係長・佐藤真希係長)

孤立死が多いのは、  
夏季（7・8月）と  
冬季（1・2・12月）

男性の孤立死は  
女性の約2倍

\* 足立区 高齢者孤立死データ分析結果から

## 2 つなげる

地域包括支援センター（以下ホウカツ）が、連絡を受けて状況を把握。必要なサービスにつなげる

### 地域の方々と二人三脚で

ホウカツ西綾瀬が担当する地域に4,500人以上いらっしゃる高齢者を、7人の職員が担当しています。民生委員や絆のあんしん協力員など、地域のみなさんの見守りが本当に欠かせません。



民生委員とも日常的に協力。山中センター長（左）と19地区 高橋絹江会長（右）

コロナ禍のとき民生委員さんが出したハガキに、70代の女性から「一人暮らしで不安」と返信がありました。担当の民生委員さんと一緒に訪問したのですが、無理に施設に入れられると誤解されて拒否。その後、民生委員さんが何度も説明を重ねられ、デイサービスに通うことに。ご自身が得意なことを活かせる場面が多く、みなさんから感謝されたり認められたりして今では毎回の利用を楽しみにされています。

デイサービスがその方の居場所になっていると感じます。問題が大きくなる前に対処できた良い例だと思えます。

(地域包括支援センター西綾瀬 山中春樹センター長)

# 「孤立」を防ぐために…

## 1 気づく

民生委員や町会・自治会活動、ご近所づきあいなどを通して、地域の人々が身近な高齢者の異変に気づく

### 実態調査で地域の実情をキャッチ

民生委員が中心になり、令和5年度で5回目の調査を行いました。千住仲町では区から依頼された調査が済んだ方も、75歳以上（複数世帯は80歳以上）からは継続的に調査するのが特徴です。高齢になると転倒や病気などで、短期間に状況が変わることをたびたび経験しているためです。

昨年度はコロナ禍明けで区からの依頼が約90世帯と多く、町会役員など22人にご協力いただきました。千住は変化が大きい地域です。私たち民生委員も日々変わる地域の実情を知ることができるとともに、調査員どうしが顔見知りになれるのも大きなメリット。新しいつながりが生まれるきっかけになればうれしいです。

(3地区 大熊純子 記)



高齢で単身、または高齢者のみの世帯を訪問して、アンケート調査を行う



「足立区いいとも実行委員会」などの地域のみなさまとフードドライブを実施

### 地域に伴走する「絆のあんしん協力機関」

商店街や町会などの地域活動に、地域の一人として参加しています。絆のあんしんネットワーク連絡会では、地域で高齢者をどう見守るか立場の異なる方々の話を聞き、ネットワークの連携がより深まっていると感じます。

信金でも日常業務の中で心配な高齢者がいると、ハウカツに連絡を入れ情報を共有。6月の「信用金庫の日」にはハウカツの方に来ていただき、出張相談会を設けました。地域のみなさまに伴走しながら、高齢者支援など地域の課題に真摯に対応していこうと思っています。

(足立成和信用金庫本木関原支店 中村俊光支店長)

## 3 寄り添う

町会・自治会の活動や、ご近所づきあいの中での声かけや見守り  
絆のあんしん協力員の見守り

### 居場所づくり・社会参加へ！



毎月、行われるプチイベント（仲町サロンで）

## 共に生きる

障がい者福祉研究部会

部会長 西村 良夫



令和6年度のテーマは「視察を通して障がいの実態を理解する」です。部会も2年目からは施設見学を中心に行っています。研修と違って一日の作業の様子や生活の実態が伺えます。

足立区では障がいのある人は人口の7.2%、約5万人いるそうです。私たちは障がいのある人もない人も生活しやすい社会をつくるために、共に生きる社会を目指して3年目に向かいます。

昨年11月に足立区手をつなぐ親の会主催の「親の会フェスティバル」に個人的に参加させていただきました。イベントも手作りのパン、工作コーナーなどがありました。最も感動したのが、最初のオープニングで当事者の若い人が流行の音楽に合わせてダンスを

披露してくれた時の家族や来賓、一般の方の手拍子が止まらず、幸せなひと時を過ごさせていただきました。



## 認知症への理解を深める

高齢者福祉研究部会

部会長 矢澤 敏臣



令和5年度の全員研修会（8月）以降の1年間（令和6年7月迄）について報告します。

第3回部会を9月20日に開催、寸劇を見て認知症の理解を深めました。第4回部会を1月10日に開催、各合同に班分けをして部会員が発言しやすい状況の中で、部会員全員による研修のほか各合同で施設を訪問することに決めました。第5回部会を3月5日に開催、部会員のコミュニケーションを図ることを目的に飲食を共にしました。会議では見せない面が見られ、部会員がたくましく感じられました。第6回部会を7



月19日に開催。各合同で施設訪問した報告と、令和6年度の年間テーマを決めました。近郊の施設見学と藤沢方面の視察研修を決めました。

## 福祉の実情を学ぶ

生活福祉研究部会

部会長 稲田 益巳



年間テーマを「生活福祉に関する様々なニーズと福祉サービスを学ぶ」と設定しました。

6月28日には母子生活支援施設「ポルテあすなろ」を訪問し、母子支援員の橋本様から生活困窮脱却に向けた母子世帯の支援について学びました。

施設の定員は20世帯で常時満室とのことでしたが、たまたま空きがあった部屋を見学し、入所した世帯がどのような生活を送っているかなどの現状を知ることができました。

今後の活動として足立区における「ひきこもり」をテーマにNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会から講師を招き、その現状と支援のあり方を考えていく場にしていきます。



## 発表の機会ごとに成長

コーラス部

部長 南 純代



コーラス部「葦立『コール絆』」は、今年7月で結成満10年となりました。コーラス経験のない初心者ばかりのスタートで、月2回の練習にもなかなか全員そろうこともありません。さらにコロナ禍での活動停止、部員数や発表の場の減少、部員ひとり一人の事情など、様々な問題を乗り越えながら、励まし合って練習を重ねてまいりました。そして、今年PR週間のコンサートで4曲披露し、大変ご好評をいただきました。全員研修会や合唱祭と発表の場も復活しつつあります。

これからも、「100回の練習より1回の本番」との指揮者田口先生のお言葉通り、発表の機会ごとに成長できるよう精進してまいります。





# ザリガニ釣りに夢中!

## 桑袋ビオトープ公園

「桑袋ビオトープ公園」は、足立にもともとある自然の姿をとりもどそうと、旧桑袋小学校の跡地（足立区花畑）につくられた公園です。

7月7日に開催された「めざせ!ザリガニマスター」には、猛烈な暑さにもかかわらず多くの家族連れが訪れ、最初の回はすぐに受付終了になったほどの人気でした。

さっそくザリガニ釣りの道具を借りて「うき島池」へ行き、釣り糸を垂らすと早くもザリガニが食いついてきて、わずか20分ほどで7匹も釣っている子もいました。ザリガニ釣りが大好きという男の子は「毎週来ていて、今日も午前中はお父さんと、午後はお母さんと来るんだ」と話してくれました。ザリガニが釣れると、大きな声を上げてピョンピョン跳ね回って喜んでいる様子がとても微笑ましく、見ているこちらもうれしくなりました。



こんなにとれた!

ふだんは、家の中でゲームに夢中になっている子どもたちも、この公園に来ると目の輝きが違うようです。

ビオトープ公園は、自然を肌で感じながら、本来人間が持っている五感を刺激し、好奇心をはぐくみ、感動を知り、豊かな感性の発達を促す、そんなすばらしい公園だと思いました。

なお、このザリガニ釣りは外来種の駆除を目的としており、釣り上げたザリガニはスタッフに渡され生物園にいる動物の餌になるそうです。(15地区 向山義一 記)

### 中学生短歌コーナー

足立区立第七中学校

大輪や舞い上がるかな夏の夜闇夜に踊る私の心  
二年 田中 美夢

空高く翼を広げたあのハトはきつと運ぶよ世界の平和  
二年 上瀉口 瑠奈

梅雨の頃色変わり紫陽花や時には変化も必要だよと  
二年 高木 優佑

教科書の手負いを見れば思い出すあの日の努力身を結びけり  
二年 紺野 陽

### 小学生絵画コーナー



「海に住む花」

かど ゆうか  
千寿本町小 4年 角 優佳 作



「じぶんのかお」

千寿桜小学校特別支援学級 1年生のみなさん 作



シリーズ

ぶらり足立

きたさんや

# 北三谷村と土地の守り神の宝蔵寺

足立区東和二丁目にある宝蔵寺は、弘法大師の荒川辺88ヶ所霊場の55番目の札所です。近くには寺と開拓を記した案内板があります。その説明によるとこの地域は19世紀末頃まで北三谷村(後に北三谷町から東和)と言われ、慶長19年(1614)の古文書に「淵江之内ふげん・さん屋新田間之事」とあり、その頃開拓されたことが分かります。また、地名に関して浄瑠璃「隅田川」の中の物語に由来する伝説が記されています。

その昔、貴族の子が誘拐され、奥州に向かったことを知った母親が、従者4人と都から追ってきた。しかし、隅田川の渡し守から子どもが亡くなったことを聞き、悲嘆にくれて尼となり草堂にこもってしまった。主を失った従者4人は浅草山谷に住まいを設けていましたが、安住の地を求めて隅田

川を北上、この地を開き北三谷と名付けて土地の守り神として一字の堂を建て今に至っています。

今、山門は幼稚園の入り口となり閉鎖されていますが、地域には北三谷神社・北三谷小学校など昔を偲ぶ旧名も残っています。

(東綾瀬地区 山崎雅明 記)



## 小学生絵画コーナー



「ぎよりゅうときょうりゅう」

もりもと ゆうたろう

千寿桜小 4年 森元 友汰朗 作

## 広報紙「さくら」アンケート調査から

広報紙「さくら」の印象について、回答の約8割の方が5段階(5が高く、1が低い)で「5」「4」と評価がありました。文字の大きさや読みやすさについても8割以上の方が「5」「4」と、好感をもって読まれていることがわかりました。

今後、取り上げてほしいテーマとしては「防災に役立つ内容」「児童に関する特集」「民生・児童委員が活動するイベント」などがあげられました。これらをもとめて地域や社会の動きを注視しつつ、より広く読まれる「さくら」を目指していきます。(広報委員会)

対象:令和6年度全員研修会出席者 回答数227人

### ●「さくら」への原稿募集中!

原稿は未発表のものに限ります。

誌面の都合上、事前に地区の広報委員にご相談ください。

過去の「さくら」はこちらから→



### 広報委員会

委員長	鶴岡 一郎	副委員長	吉田 祐一	編集長	杉本 和子	副編集長・レイアウト	吉澤 はる江	編集委員	山崎 雅明	吉井 記代	宇田川 毅	木村 克博	小宮 忍	向山 義一	林 哲司	眞野 賢枝	校正委員・会計	宮澤 カヨ子
校正長	富澤 久男	副校正長	富田 英紀	校正委員	芦田 利恵	藤本 悦弘	下岡 博幸	赤野 明美	鈴木 政博	校正委員・書記	中村 知代	永塚 徳雄	神野 松枝	富田 英紀	副校正長	富田 英紀	副校正長	富田 英紀

### 編集後記

今回も多くの方々からの協力を得て、無事に「さくら」66号をお届けすることができました。特集ページでは、「高齢者が地域や社会から孤立する問題をどう防いだらよいか」をテーマに取り上げました。高齢者の単身世帯が増え続けているなか、私自身にとっても大きな関心事であり、日頃から身近な人と気軽に会話できる関係を築けるよう心掛けたと思います。

次号も皆様の声を大切にし、より充実した内容をお届けできるよう努めてまいります。

(14地区 神野松枝 記)